

令和6年度第1回 京丹後市図書館協議会（会議録）

1. 開催日時 令和6年12月16日（月）午前10時00分～12時00分

2. 開催場所 京丹後市大宮庁舎 4階 第2・3会議室

3. 出席者氏名

（1）審議会委員

松岡委員、木本委員、東委員、増田委員、味田委員、大下倉委員、吉岡委員、小森委員、
中村智彦委員

※ 欠席1名（中村隆倫委員）

（2）事務局

教育長 松本明彦

教育次長 川村義輝

生涯学習課 課長 松本優、課長補佐 小森教正

図書館 館長 亀田真奈美、主任 田辺聖子

政策企画課 都市・地域拠点整備推進室 主任 石井真澄

4. 内容

別紙（会議次第）のとおり

5. 公開又は非公開の別 公開

6. 傍聴人 なし

会議録

事務局 皆さんおはようございます。ただいまから令和6年度第1回京丹後市図書館協議会を開催いたします。私は会議の冒頭、進行を務めさせていただきます、教育委員会事務局生涯学習課長の松本と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の第1回図書館協議会についてですが、皆様には今年6月に委員にご就任いただいたおり、任期は今年の6月3日から始まっています。

本来であれば就任いただいた6月もしくは7月に、第1回目の図書館協議会を開催して、顔合わせしていただいた上で、図書館に関わる諸課題の協議を行っていただくべきところでしたが、事務の遅れにより今日まで開催できなかったことを、まずはお詫び申し上げたいと思います。申し訳ありませんでした。

本日は、中村隆倫委員から欠席の連絡をいただいております。また、本日は関係職員として、市長公室政策企画課都市地域拠点整備推進室から石井主任が同席しておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは最初に委員の皆様方へ任命通知書を交付させていただきたいと思います。

本来であれば、お1人お1人に交付させていただくべきところですが、時間の都合上、あらかじめお手元にお配りさせていただいております。ご了承ください。

委員の皆様の任期は、本年6月3日から令和8年6月2日までの2年間です。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは開会にあたりまして、京丹後市教育委員会松本教育長からごあいさつを申し上げます。

教育長 皆さん改めましておはようございます。第1回の京丹後市図書館協議会の開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。皆さん年末のお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。また、学校現場の小中学校の校長先生におかれましては、学期末まであと1週間というところで申し訳なく思っているところですが、ご出席いただきましてありがとうございます。

昨今、様々な子供たちの学び、特に主体的な学びというのが求められている中で、その主体的学びを支えていくには図書館が重要な役割を果たすと思います。図書館には、課題を解決するための資料がありますし、また、教養を深めていく上でも図書の役割は本当に大きいと思っております

兵庫県立芸術文化観光専門職大学の平田オリザ学長はよく「身体的文化資本」というふうに言われます。子供の頃から文化的な学びを蓄積していくことが、学力向上に繋がるというお話しや、大人になってからも芸術文化に携わるようになるというお話を、毎回のように講演などでお話いただきます。そうした身体的な文化資本を高めていくうえで図書館の役割というのは、本当に大きいと思っています。

新たに委員となつていただいた方の中には子育て世代の方も多いです。大人の読書だけではなく、子供たちに読書好きになつてもらうことや、図書に触れていただくことも非常に重要なと考えておりますので、子育て世代の方を多く委員として選定させていただきました。

先日、長年医師として活躍された谷垣雄三氏を京丹後市名誉市民として顕彰させていただきました。谷垣氏を支える会の方々が作られた「(Dr. タニ) ひとつぶの妻」という絵本を、先日、会の方々から学校に多く寄付いただきました。各学校では、本当に多くの子供たちがその本を読んでくれていると聞いております。そうした京丹後市出身の偉人の伝記に触ることは、子供たちの成長にも繋がると思いますので、改めて本の役割は重要だと感じているところです。

年間2回程の会議ですが、皆さんから率直な意見をいただき、市民全体の図書活動が活性化することを祈念しまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

事務局 本日は初顔合わせということになりますので、委員さんそれぞれから自己紹介をお願いしたいと思います。

～委員自己紹介～

～事務局自己紹介～

事務局 それでは早速ですが議事に移らせていただきたいと思います。

まず役員の選出について議題とさせていただきます。会長副会長の選出につきましては、京丹後市立図書館条例施行規則第24条で、委員の互選によって定めると規定しております。立候補がありましたら挙手していただきますよう、お願ひいたします。

- ないようでしたら、事務局から提案させていただいきます。
- 事務局 会長に松岡委員さん、副会長に木本委員さんを推薦させていただきたいと思います。
- ～拍手～
- 事務局 拍手をいただきましたので、会長を松岡委員、副会長を木本委員にお世話になりたいと思います。
- ～会長、副会長 席移動～
- 事務局 それでは松岡会長様、ご挨拶をお願いします。
- 会長 松岡と申します。改めましてよろしくお願いいたします。
- 今日は都市・地域拠点整備推進室から石井さんが来てくださっています。私たちが答申で希望していた中央図書館について、建設の話が進みつつあるこの大事なときに、私が会長でいいのだろうかと思いながら、座っています。
- 私は図書館大好き人間で、11年間図書館に勤めさせていただいて、もう退職して13年目になります。この13年の間にすごく世の中は変わったような気がしています。まず一番大きいのは、みんながスマホを持つようになったこと。図書館で調べていたことが今は手元で、その情報が正しいかどうか別にして、すぐに調べられてしまう。また、今はスマホの中で小説も読めてしまう時代になりました。コロナも随分世の中を変えたように思っています。
- 退職してからの13年というブランクはとても大きくて、私は今の図書館を取り巻く現状とか問題点、それから近隣の図書館の状況もよくわかつておりません。読み聞かせボランティアとして、あみの図書館で活動させてもらっていますけれども、この場で検討すべき問題点などはよくわかつていないので、教えていただきながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
- 事務局 この後の協議事項につきましては、京丹後市図書館条例施行規則第25条におきまして「会長が議長をつかさどると」規定されておりまますので、松岡会長よろしくお願いいたします。
- 会長 次第の説明・報告事項 (1) 図書館協議会委員の職務について、事務局から説明をお願いします。
- ～事務局説明～
- 会長 何か質問などございませんでしょうか。特ないようでしたら、次に(2)、令和5年度及び令和6年度11月までの市立図書館利用状況についての説明をお願いします。
- ～事務局説明～
- 会長 委員 今、利用状況などについて説明がありましたけれども、何かご質問等ないでしょうか。
- 子育て世代の方は本を借りられますか。
- 事務局 小学校以下の子どもさんと、30代40代の利用割合は多くなっています。中高生の利用割合は小学生以下と比較するとグッと少なくなります。
- 委員 課題として、子育て世代の利用者数の増加を目指すのであれば、何か策を考えないといけないなと思います。初步的な質問なんですが、この利用者登録は何歳からできるんですか。
- 事務局 0歳からでも大丈夫です。子どもさんが小さいうちに利用者登録される方もありますし、保護者のカードで借りられる方もあります。
- 委員 データの集計を詳しくしていただいたと思っているんですが、確か総合計画(第2次京丹後

市総合計画)で1人当たりの貸出冊数の目標数字があったかと思うんですが、その目標との対比データは出しておられないでしょうか。

また、先ほどの説明で図書館を使っている人が限られているという話がありましたので、1人が使わなくなると利用率が下がってしまうこともあるかと思います。教育長が言われたように市民全体の図書活動の活性化を目指すのであれば、今図書館を利用している人だけではなく、図書館を利用されてない方へのアプローチが必要だと思います。

そのためには、一旦仮説を立てて対応策をとり、更に、次の取り組みに生かしていくことが必要ではないかなと思います。

Wi-Fiの導入はとてもいいことなんですが、Wi-Fiが使えることを知らない方が結構おられるので、もう少しわかりやすくお知らせした方がいいと思います。

事務局 Wi-Fiの件は以前の協議会でも、「広報が不足しているのではないか」といったご意見をいただきおりました。図書館内に、Wi-Fiが使えるということを掲示しながら、また他の広報も利用して、周知していきたいと思います。

1人当たりの貸出冊数ですが、令和5年度は市民1人当たり5.38冊の貸出となっております。令和4年度が5.48冊であったので、微減しております。総合計画(第2次京丹後市総合計画)の目標値である7冊には、まだ遠い状況であります。

状況の分析については、各図書館・図書室の職員にも数字を見てもらい、何が原因かということを聞いてもいるんですが、これというものが見つからずにいます。もう少し細かい分析を行えば、何か傾向が見えてくるということもあるかと思います。本来であれば本日の協議会までに、いろんな方向から数字を分析して原因を探るべきだと思うんですが、この場でそこまでの内容がお伝えできず申し訳ありません。

教育長 年代層別の貸出冊数データを提示しければ、実態がわかりにくいと 思います。例えば20代への貸出冊数が少ないと言っても、そもそも市内在住の20代は少ないので、当然そういう結果になると思います。年代層毎の人口割合で1人あたりの貸出冊数を比べないと、どの年代への貸出冊数が多いのかがわかりづらいと思います。

委員さんからご意見や利用活性化の案をもらうために、2回目の協議会ではそういうデータの提示が必要だと思います。

委員 資料で利用登録者数の推移を見ると、増える一方になっています。登録者数が2万1000人ということは、京丹後市の人口の半分弱の人が利用登録していることになるので、現実的でないよう思います。きっと亡くなられた方とか、転出された方を含めた数だと思いますので、本当に借りることができる人の数は資料ではわからないです。

もう1点、やはり中高生が本を借りないように思います。私の経験から考えても本から離れていくのは小学校中学年くらいからだと思います。それまでは親、或いは教員とかが本を読み聞かせすることが多いので、子供は本と触れる事もできるんですが、小学校3、4年生あたりからは本に触れなくなります。その年代の子をつなぎとめて中高生をどう引きつけるか、それは図書館だけの役割ではないと思っていますが、重要だと思います。

前に草津の図書館へ視察に行かしていただいたときに、ヤングアダルトへのアプローチをボランティアが中心になって本当に熱心にされていました。

中高生が自分たちで図書コーナーを作つて友達をよんだり、自分たちで人を引きつけるということをボランティアの人と一緒にされていました。ヤングアダルトのコーナーを子供たちが企画運営しているということで、普通では考えられないような貸し出し数を記録しているとのことでした。

京丹後市も図書館の職員さんが一生懸命してくださっていますが、それだけでは到底、及ばないと思うんです。私たちボランティアをもっと使ってもらつたらいいのにと思います。

子供のときに「読書が楽しいな」という経験をした人は、忙しくて読めない時期があつても必ずまた読書をするようになると思います。なので読書から離れる小学校3、4年生あたりの子供に、ボランティアや図書館が一緒になってアプローチできたらいいなと思います。質問も含めて意見でした。

事務局 ご指摘のとおり、利用登録者数は平成25年以降、整理ができていない状況です。引っ越しされた方や亡くなられた方の整理ができないので、実際利用が可能な方の数とは乖離しています。申し訳ありません。

確かに、小学校中学年ぐらいまで図書館に来ていた子も、高学年になると顔を見なくなるというのを感じております。皆さまにご協力もお願いしながら、また考えていきたいと思います。

委員 本屋の話とつながるんですけど、図書館はすごく綺麗に本を並べていると思うんです。Aから始まってアルファベットで整理されていますが、それでは関係ない情報が入りにくいかなと思います。例えば、養老孟司さんの「バカの壁」を借りたいと思って図書館に行つたら、その本しか目に入らない。借りたいものしか借りないという状況があると思うんです。

養老さんは実は虫の学者なんですが、図書館で虫の学者だということが知れたら、養老さんの書いた虫の本も借りてみようと思えるかもしれない。その知的好奇心が、図書館や町の本屋の魅力だと思います。

京丹後市内の本屋が減っているのは、そういう魅力が無いからなのかなと思います。私が働いてた本屋は、ジャンルをある程度固定したうえで、直接関係のない本を並べていました。先ほどの、「バカの壁」の隣に昆虫大百科を並べるようなことです。そうすると、読み手の知的好奇心が刺激されて2冊買ってもらえるというようなこともあります。

図書館を利用される方は、ある程度専門性を持った利用をされていると思います。人文が好きな人であつたり、小説が好きな人であつたり、いろいろあると思うんですけど、そういう人たちの持つている「好き」を集めた本棚を作つてみると面白いと思います。それを図書館の職員だけではなく、外部の人の本棚みたいな形でコーナーを作つてみるといいと思います。反響もあるだろうし、活気が出で面白いと思います。図書館で働かれてる職員さんや図書館協議会の委員さんもきっと本が好きだと思うので、お好きなジャンルで本棚を作つてくださいとなれば、ものすごく面白い棚ができると思います。そんな本棚であれば、僕も読んでみたいですし、評判が口コミで伝わつていけば、利用者の増加に繋がるのかなと思います。具体的な意見として、お伝えさせてもらいました。

事務局 すごいアイデアをいただきまして、ありがとうございます。ぜひ検討していくらと思います。

会長 利用者数の整理については、これまでから課題だったと思うんですけども、亡くなった人

や京丹後市を出て行かれた方も、カードだけが残っている状態があると思います。その情報を、図書館が入手できるかどうかということも 1 つ問題があると思います。そのような情報が入手できるのであれば、1 度整理すべきでないかなと思います。整理することによって、利用者数は減ると思いますが、実態把握のために必要なことだと思います。

私の母も読みたい本があるときは、私が代わりに借りていますので、私への貸出になってしまっています。親子で来られた場合は大人のカードで借りられるので、何歳がどのくらい借りてるという詳細や実態はなかなか把握しにくいとは思います。

ただし、どういう年齢層の利用が多い、少ないというデータは割と簡単に出来ると思うので、1 度整理して、委員に見せていただきたいと思います。

他にご質問はないでしょうか。それでは、(3) 令和 6 年度市立図書館事業計画及び実施状況、予算について、の説明をお願いします。

～事務局説明～

委員

私たちが運営している子育てサロンでも、図書館の職員さんにお願いして、手遊びや読書会、ミニシアターを実施していただいている。子供たちも楽しいですし、何しろ母親が喜んでくれています。いつもご支援いただきいていまして感謝しております。

委員

少ない職員さんで本当にいろいろな事業を行っていただいていると思うんですが。

以前の図書館アンケートで「あなたはこの 1 年で図書館を利用しましたか」という問い合わせで、「利用しなかった」という人が 65% もおられます。なので先ほども言いましたが、利用していない人に向けてのアプローチが必要だと思っています。

図書館事業はどれを見ても楽しそうですし、大人の方への事業は新しく取り組んでいただいているなと思うんですが、すべての事業で逆算の考え方が必要かなと思います。どの層に対して、どのような効果を期待して、事業を実施するのかを最初に考えないと、同じ層ばかりへの対応になると思います。

それから平成 28 年に図書館協議会に諮問がありましたが、施設の老朽化とか狭い閲覧スペースについて課題意識を持ってのことだったと思います。答申からも大分時間が経っていますが、今すぐ新図書館を建ててくださいとまでは言いませんが、もう少し急いでもらえないかなという思いはあります。

事務局

昨年度最後の協議会で「図書館運営に関するアンケート等を実施して、今後の図書館像について意見をまとめます」とお伝えしたんですが、未だアンケートや意見の取りまとめが実施できていない状況です。今年度中にはきちんとアンケートを実施するつもりでいます。

答申も含めまして、今後、図書館図書室をどうすべきかということを考えていきたいと思います。

委員

ブックスタート事業について、子育てサロンから聞いてきた意見を紹介したいと思います。6、7 の方に聞いたんですけど、それぞれ、お話しします。「毎日活用させてもらっています」「思ってもいなかつた本のプレゼント大変うれしかったです」「読んでやっていると意味はわからないだろうけど、聞いているなあという感じがしてうれしい気持ちが湧いてくる」「親も子も楽しませてもらっています」「成長するにつれ、読書をしたり、本に親しむ人になってくれたらうれしいと思っています」ということでした。ぜひ未来への投資だと思って、継続して

いただきたいと思っております。一時期、この事業は中断されていましたが、再開していただいて、このような素晴らしい意見もいただいております。教育長もおっしゃったように、読書は人生を豊かにしてくれるんではないかなと思っております。

委員 新図書館について、建築予定はどうなっていますか。計画を立てたら、あと何年後には建てるという目標を持つことが大事だと思います。

あとは図書館長さんだけで苦しまないで、先ほどもあったように、ボランティアに投げかけたりしないといけないと思います。いつまでも図書館を利用しない人が 65%とかではいけないと思います。

もっともっと動きを早くしないと、人口減や高齢化がますます進みますので、このままでは京丹後市は無くなってしまいます。

会長 当初予算及び補正予算の資料を見ていると、図書購入費が 200 万円近く減らされていまして、本当に胸が痛いです。

私が所属する読み聞かせボランティアの会では、毎月勉強会をしていて、みんな 1 冊ずつ絵本を持ってきて、読み合います。そうすると、自分でも欲しくなる本があって、Amazon で買ったりもするんですけども、今は絵本でもとても高いです。そのような中で、200 万円も予算が減らされるということは大変なことだと思いますし、何とかならないだろうかと考えておりました。

もう 1 つ質問があります。私たちも学校に読み聞かせに行っていますが、網野中学校の子供たちが、吸い込むように聞いてくれるので、病みつきになっています。誰も目をそらすことなく聞いてくれるので、とてもお話が好きなんだなと思って、語り手冥利につきます。今年は丹後中学校にも行かせてもらうようになったんですが、同じように良い反応で、すごくいいことだなと思っています。

ですから、その次の子供たちが自分で本を読むという段階までには、大きなハードルがあると思っております。そのハードルをどうやって越えさせるかということはすごく難しいですし、大きな問題だと昔から思っています。

そこで質問させてもらうんですが、小学校と中学校では、どのような読書の取り組みをされているか、お聞かせ願えないでしょうか。

委員 すべての小学校に当てはまるかどうかはわからないですが、本校で言うと、曜日を決めて週に 1 回、朝の 10 分間を読書の時間に充てています。

また、学校読書推進の事業として、図書館員の方が 1 コマ 45 分を使って、それぞれの学年に入っていただくという授業も実施しています。1 冊の本を読むだけではなくて、様々な手法で、絵本に触れさせてもらえる機会になっているので、子供たちは楽しんでおります。担任も、こんな絵本の紹介の仕方があるんだということで勉強になっています。この 45 分の時間は非常に貴重だったと思っておりますので、今後も授業に取り入れていきたいと思っております。

委員 中学校では毎朝 10 分間読書の時間がありますので、登校したらまず読書ということで全校生徒で読書をしています。中学校には図書委員というのがいまして、毎日お昼休みに学校の図書室を開館したり、学期 1 回程で自分が読んだ本からお薦めのものを全校生徒に紹介したり

という推進活動をしているという次第です。

委員 図書館は本当にたくさんの魅力的な工夫をされていると思います。各図書館、図書室で毎月テーマ展示をされたり、色々なPOPを作ったり、大変なご苦労をされながら、魅力的な図書館にするために一生懸命頑張っておられると思います。

以前、館長さんにお伝えしたんですけれども、ボランティアをもっと使っていただいたらいいかと思います。各図書館には精力的に頑張っておられるボランティアメンバーさんがおられるので、図書館の職員さんだけで対応できないことはボランティアの力を使ってもらいたいです。例えば絵本の読書会でも、大人が楽しめる読書会や、テーマを決めた読書会を実施して頂きたいです。例えば「紙」というテーマや、「贈り物」というテーマの絵本で読書会をして、参加者が持ち寄ってもいいし、図書館の職員さんが準備してもらってもいいと思います。私たちは1つのテーマから様々なことを感じ取ることができますし、読書会で何冊か読むとしてもそれ程時間は掛からないので、絵本の読書会の最後には、参加者それぞれの感じ方を話し合う時間が持つこともできると思います。そんな大人が楽しむ読書会を私はしたいなと思っています。ボランティアとしていくらでもお手伝いしますので、検討してみてください。

委員 図書館は「本を読む場所」「本を借りる場所」というのは理解しているんですが、保育園児3人を育てているので、静かにしないといけないと思うと少しハードルが高いです。図書館の職員さんは「気にせず来てください」と言ってくださるんですけど、ゆっくり本を読みたい人もいると思うと躊躇してしまします。

まずは、「居場所として図書館もあるよ」とか「図書館で休憩しようかな」という認識が拡がって行けばいいと思っています。その発信を考えるのも1つの方法だと考えています。

委員 いまのご意見はすぐに対応できると思います。空いた部屋を活用して、子連れでも集まりやすい環境の整備をすればいいと思います。京丹後市は子育て世代の支援ができていないので、雨が降ったら子供をどこに連れて行こうかと皆さん困っておられます。そういう場所づくりができていません。

事務局 貴重なご意見や企画案をいただきありがとうございます。今後の参考とさせていただきます。先ほど居場所という言葉が出たんですが、市としても居場所としての機能充実が大きな課題と考えていますので、今後検討を進めて参ります。

会長 他にご意見ご質問等ございませんでしょうか。それでは次に(4)その他について、事務局からお願いします。

事務局 昨年度の図書館協議会で都市拠点構想の基本計画について概要を説明し、委員の皆さんからご意見をいただきました。基本計画では、都市拠点施設内に中央図書館を建設するとしておりましたので、担当課である政策企画課の都市地域拠点整備推進室から、改めて説明させていただきます。

～事務局説明～

会長 今の説明について、ご質問はございますでしょうか。ないようでしたら次第7、その他について事務局からお願いします。

事務局 京都図書館大会について、各委員さんにご案内させていただきましたが、今年は新しくなりました綾部市立図書館で開催され100名程の参加があったとのことです。事例発表では、丹後

緑風高校の学校図書館司書の伊達先生の発表もありました。

急なご案内となってしまったのでご参加いただけなかつた方も多いですが、アーカイブを Y o u T u b e で一般公開すると聞いておりますので、連絡がありましたら改めてご案内させていただきます。

会長 その他にご意見等ないようでしたら、議事を閉じさせていただきます。進行を事務局にお返しいたします。

事務局 第1回目の図書館協議会ということで、いろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして木本副会長からご挨拶を申し上げます。

副会長 皆さん今日はどうもご苦労様でした。久々の図書館協議会でしたけれども、皆さん活発にご意見を出していただきました。今日出た意見が図書館の運営に活かされて、市民の皆さん気が持ちよく、そして活発に図書館を利用していただけたらいいなと思っています。ありがとうございました。

事務局 それではこれをもちまして閉会とさせていただきます。委員の皆様ありがとうございました。